

特設第三十二校岡砲隊略歴

年月日	概 要
	縮成地 大阪府信太山
	縮成年月日 昭十九、五、二丁
	終戦時位置 南洋群島パラオ諸島パラオ島
	歸還上陸 街賓ソ
	復員年月日 昭三丁、丁三十九
昭七、五、三	縮成完結大阪出港
エニ	門司出港
エ九	基隆入港
エ三	高雄公港
エ三	マニラ入港
エ一	セブ入港
エ三	ダバオ入港
エ四	パラオ上陸
エ六	セップ島上陸
九	<p>集団司令官井上中將の指揮に入る                      以降聯合軍の爆撃集中下戦闘任務と併行して現地自衛を続け終戦に至る</p>

(51)

0732

特設第三十三機隊部隊略歴

年月日	概	要
昭和五年六月	<p>備戒地 大阪府下信太山(四四△)                      備戒年月日 昭和十九年五月十九日                      補充擔任部隊 中部二十七部隊                      終戦時位置 ペリリコロ島玉砕(十九年五月三十一日)                      備戒完結</p>	
五年三月	大阪出帆	
五年五月	パラオ島上陸	
五年六月	<p>オ四十五警備隊に配属                      ニニニエハA訓練(十四日指揮下に入る)</p>	
五年七月	<p>パラオ島出發へ島上陸以來不眠不休陣地構築從事中                      連合軍の同島強襲上陸開始す</p>	
五年八月	<p>同島指揮官中川大佐を中心に善謀勇戦を続け数倍に余る敵に対し最後の一兵迄                      肉攻斬込に徹し多大の損害を與へたるも遂に                      全員戦死を遂げたることを認定する認定理由別紙</p>	

(52)

外中印太

0733

の外中郎太

特設第三十四夜閃砲隊 昭一四一八四部隊踏履

年 月 日	概 要
昭和五年五月	飾成地 中郎二十七部隊大改河下信太山 飾成年月日
昭和五年五月	終戦時位置 中郎二十七部隊 歸還上陸地 霜賀
昭和五年五月	復員年月日
昭和五年五月	飾成完結
昭和五年五月	門可卷出帆
昭和五年五月	マニラ上陸
昭和五年五月	パラオ上陸(マラカル港)
昭和五年五月	パラオ島防備第一次くわ四次作戦参加 熱研台地附近に位置す
昭和五年五月	パラオ出帆
昭和五年五月	霜賀上陸す

要

(5)

0734

特設第三十五機関砲隊略歴

年月日	概要
昭和五年	<p>締成地 大阪府下信太山                      締成年月日                      補充擔任部隊 中部二十七部隊                      終戦時位置 南洋群島パラオ諸島                      帰還上陸地 パリリュ玉砦                      歸水完結                      大阪出帆</p>
五年六月	<p>パリリュ玉島に上陸                      パリリュ玉島上陸日夜不眠不休陣地構築を從事中</p>
五年九月	<p>連合軍の向島強襲上陸を開始す                      向島指揮官中川大佐を中心に奮闘戦を続け数倍に余る敵に対し最後の一兵迄                      肉攻斬込みに徹し多大の損害を蒙りつゝ敵斗し遂に                      全買戦死を遂げたる事を認定す</p>

心の故中郎太

(54)

0735

特設第三十ニ校岡砲隊略歴

年月日	概要
昭和五五	<p>編成地 大阪府下信太山</p> <p>編成年月日</p> <p>補充擔任部隊 中部第三十七部隊</p> <p>終戦時位置 アルミツ水道</p> <p>南洋群島パラオ諸島(終末)</p> <p>帰還上陸地 浦賀</p>
五五	<p>復員年月日</p> <p>編成完結(陸密ニニキ号より)</p>
五三	<p>大阪出帆</p>
六二	<p>門司港出発</p>
六五	<p>マニラ入港</p>
六八	<p>セブ入港</p>
七三	<p>ミンダナオ</p> <p>ガバオ着</p> <p>ニナダバオ発</p>
七五	<p>ニ四エロノル上陸</p> <p>パラオ島嶼の防備</p>
七五	<p>九、三中部</p> <p>大太平洋一、次パラオ作戦参加</p>

(55)

0736



特設第三十七機関砲隊略歴

年 月 日	概 要
昭和五年五月	編成地 大阪府下信太山 編成年月日
	終戦時位置 南洋群島パラオ諸島パラオ島 帰還上陸地 相賀
	復員年月日
昭和五年五月	編成完結
昭和五年五月	門可港出発
昭和五年五月	基隆着
昭和五年五月	マニラ、セブを経てミンダナオタバオ着
昭和五年五月	パラオ、コロール島着
昭和五年五月	パラオ本島終行場防空陣地勤務
昭和五年五月	海軍四五警備隊配属(一四D直轄)
昭和五年五月	防空戦斗参加
昭和五年五月	以降パラオ島防備 陣地構築
昭和五年五月	以降同島朝日村に於て現地自活

(57)

0738



特設第三十八機関砲隊略歴

年月日	概 要
昭五 八 九	<p>編成地 大阪府下信太山                      編成年月日                      補充擔任部隊 中隊二十七部隊                      終戦時位置 玉碎ペリリヌー島</p>
去五 三 三	<p>大阪出帆</p>
去五 三 三	<p>パラオ島上陸一四〇長指揮下に入る</p>
去五 三 三	<p>ペリリヌー島上陸陣地構築飛行場整備                      連合軍上陸開始</p>
去五 三 三	<p>同島指揮官中川大佐を中心に特兵一丸となり善謀勇戦を続け数倍に余る敵対                      して最後の一兵迄肉薄攻撃に徹し多大の戦果を収めたるも遂に                      全員戦死を遂げたる事を認定さる</p>

(57)

0740

特設第三十九機隊部隊略歴

年月日	概	要
昭和五十九	編成地 大阪府下信太山 編成年月日	
	補充擔任部隊 中隊第二十七部隊	
	終戦時位置 西洋群島パラオ島	
	帰還上陸地 稍賈	
二十五年五月	復員年月日	
五十年	大阪出帆	
六十年	門司港出発	
六十年	比島ダバオ着	
六十七年	パラオ島上陸	
七十七年	アラアラカバサン対空部隊として戦斗	
五十八年	パラオ島朝日村附近に於て自強演習に従事	

(60)

0741

ノリノ中本太

特設第四十機団砲隊略歴

年月日	概要
昭五十九	備成地 大阪府下信太山
備成年月日	
補充擔任部隊 中部二十七部隊	
師団上陸地 相賀	
復員年月日	
大阪出帆	
門司出発	
パラオ島上陸海軍方三十根拠地隊司令官の指揮下に入る (方十四Dの隷下に入る)	
パラオ島マラカル島に於て対空戦に従事	
パラオ島出発	
相賀上陸	
復員	

(61)

0742

独立混成第百十九旅団司令部隊略歴

年月日	概	要
昭五 三 五	編成地 満洲国東寧縣大城子	
	編成年月日	
	補充擔任部隊 新制八百八十七部隊	
	終戦時位置 西カロリン諸島ヤンプ島	
	帰還上陸地 稍賣及博多	
手 一 五	復員年月日	
五 三 五	オ四孤遺隊編成	
	編成部隊左記の如し	
	オ十二 (通信隊含む)	
	三十四、二十六、四十八、二十四、十八	
三 一	大城子出發	
三 七	釜山出發	
四 五	ヤンプ島上陸	
五 三	独立混成オ四十九旅団編成	
	陸軍大佐 江藤 大八	

16の四中部太

(62)

0743

聖子 十九	年月 日
終戦に至る阿爾善守備 数次に亘り帰還す	概
要	

(63)

0744

独立混成隊第四十九旅団砲兵隊略歴

年月日	概要
昭和五年三月	編成地 南洋群島 西カロリン ヤップ島 編成年月日 補充擔任部隊 精利三一三部隊 終戦時位置 ヤップ島 帰還上陸地 稍賢
昭和五年三月	復員年月日 一部 (残三一、五五)
昭和五年三月	口号演習参加(才 派遣隊砲兵隊として) ヤップ上陸
昭和五年三月	砲兵隊編成
昭和五年三月	部隊復員
昭和五年三月	残留作業隊浦賢上陸

(64)

0745

独立混成第四十九旅団工兵隊略歴

年月日	概	要
昭和五五	<p>縮成地 西カロリン群島ヤップ島 縮成年月日</p>	
昭和五三	<p>補充擔任部隊 精川一二部隊 終戦時位置 ヤップ島</p>	
昭和五二	<p>師団上陸地 補償 大那</p>	
昭和五二	<p>残留員</p>	
昭和五二	<p>精川國壯丹江省東寧出発 (口号演習参加) 才回派遣隊工兵隊として</p>	
昭和四五	<p>ヤップ島上陸</p>	
昭和四五	<p>軍曹 一 主計 一 現地召集兵 八 を加えて縮成完結</p>	
昭和五三	<p>雨采終戦に至る迄同島守備 部隊の大那は少尉牛尾慶祇の引率を以て復員隊長以下十五名は整地作業隊員として残留二〇三三作業終了</p>	
昭和五三	<p>補償上陸復員</p>	

(65)

0746

独立混成第四十九旅団臨時野戦病院略歴

年月日	概	要
昭和六	<p>補成地 滿州国ハルピン市外平房（一六八三〇）                      （西カロリン群島ヤシンプ島）</p> <p>補成年月日</p> <p>補充擔任部隊 滿州八八七部隊（一二歩兵團司）</p> <p>終戦時位置 ヤシンプ島</p> <p>帰還上陸地 相賀</p> <p>復員年月日</p> <p>臨時野戦病院は方ニ五防養給水部員として滿州濱江省ハルピン市外平房に於て                      補成</p>	
二十	<p>滿州国錦州省コ口島出帆カ一回軍の隷下に入り同年一ニニ比島リングエンエ                      陸軍米比島訓練名地と戦戦カ一八軍隷下に入りマニラ港出帆ニエギニヤに向ふ                      途中パラオ島に上陸主力は直にニエーギニヤに到着一師は同島〇〇勤務に服す                      （四九ワ長指揮下に入る）</p>	
二十	<p>の隷下に入り臨時野戦病院開設終戦に至る                      より引揚開始</p>	

(66)

0747

甲子 年 正月 五日	年 月 日
用 資 上 陸	王 刀 出 発 (四十名) 概
要	

(67)

0748

独立歩兵第三大隊略歴

年月日	概
昭和二年	編成地 九州国東寧
昭和二年	編成年月日
昭和二年	終戦時位置 ヤップ島
昭和二年	帰還上陸地 洞賀
昭和二年	復員年月日
昭和二年	口号演習参加出発(才田派遣隊方一大隊)
昭和二年	釜山出発
昭和二年	ヤップ島上陸一回長の隷下に下る
昭和二年	臨時編成下今同日三三三大隊と改編爾後同島守備
昭和二年	戦斗参加
昭和二年	方一回輸送開始
昭和二年	主刀輸送
昭和二年	洞賀上陸
昭和二年	解隊復員

(68)

0749

独立歩兵第三四大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和三年	<p>縮成地 滿州国東寧 縮成年月日</p>
昭和三年	<p>補充擔任部隊 滿州三〇六部隊 終戦時位置 ヤンプ島 帰還上陸地 浦賀</p>
昭和三年	<p>復員年月日</p>
昭和三年	<p>口號 瀕習参加出発 釜山出発</p>
昭和三年	<p>ヤンプ島上陸 改編三四大隊として爾來同島守備</p>
昭和三年	<p>浦賀復員</p>

0750

独立歩兵第三二五大隊

年月日	概	要
昭和二十二年三月二十一日	緬成地 滿洲國東寧	
三月二十二日	ヤップ島	
三月二十三日	補充擔任部隊 滿洲一〇六部隊	
三月二十四日	終戦時位置 ヤップ島	
三月二十五日	帰還上陸地 洞寶	
三月二十六日	復員年月日 元歩兵第二十四連隊が三大隊 東寧駐屯 方四派遣隊編成下令ニ九日緬成完結	
三月二十七日	釜山出発	
三月二十八日	三十一 A 司令部隷下に入る 同日方四派遣隊が一大隊と改編	
三月二十九日	馬公入港	
三月三十日	高雄入港	
三月三十一日	高雄出発	
四月一日	ダハオ入港	
四月二日	周港出発	
四月三日	ヤップ島上陸	

(70)

0751

年月日	概 要
聖 六 元 七 二 十 三 十 五 日	臨時編成下令同日独立歩兵第三五大隊と改編 締成完結 同日以降同島守備終戦に至る ヤップ島出発 補資上陸 百解

(71)

0752

独立歩兵第三二六大隊 第一五四部隊略歴

年月日	概	要
昭和三年三月	歸天地 兼川東寧ヤツプ島	
三月	歸天地 兼川東寧ヤツプ島	
三月	補充擔任部隊 兼川一〇六部隊一〇八	
三月	終戦時位置 ヤツプ島	
三月	歸還上陸地 霜寶	
三月	復員年月日	
三月	予四八連隊編成	
三月	駐屯地出発	
三月	ヤツプ島上陸	
三月	独立歩三二六大隊編成完結	
三月	同島守備	
三月	ヤツプ島出発	
三月	霜寶上陸	
三月	霜寶に於て復員	

独立歩兵第三大隊略歴

独立歩兵第三大隊略歴

年月日	概	要
昭和二年三月	締成地 ヤシブ島	
昭和二年三月	締成年月日	
昭和二年三月	終戦時位置 ヤシブ島	
昭和二年三月	師団上陸地 邦寶	
昭和二年三月	復員年月日	
昭和二年三月	守都宮に於て五十一D締成下に入る(一部のもの)	
昭和二年三月	支隊(基 <sup>282</sup> は隊)締入人員一八八名	
昭和二年三月	蘇州錦屏附近に於て作戦準備	
昭和二年三月	一六二二五	
昭和二年三月	一六一九	
昭和二年三月	香港攻略戦期間南支廣東附近に於ける警備並作戦	
昭和二年三月	スマルク群島ニューブリテン 島ラバウル附近の警備	
昭和二年三月	ヤシブ島警備並に待命	

(73)

0754

9  
ノ  
タ  
ト  
フ  
ス

レ)

ハ

)

〃

ハ

フ

年 月 日	甲 七 × 二
祝	陸 衛 に よ り 四 九 〇 〇 隸 下 に 入 る

要

<74>

0755

独立歩兵第三二八大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和五年五月	<p>編成地 ヤップ島</p> <p>編成年月日</p> <p>補充擔任部隊 滿洲一〇六部隊</p> <p>終戦時位置 ヤップ島</p> <p>帰還上陸地 桐原</p> <p>復員年月日</p> <p>カ四派遺隊編成</p> <p>駐屯地出発</p> <p>ヤップ島上陸</p> <p>独歩第三二八大隊編成完結</p> <p>爾後同島守備終戦に至る</p>

(75)

0756

独立歩兵第三ニ九大隊略歴

年月日	概	要
昭和 七 二	編成地 ヤップ島 編成年月日	
	補充擔任部隊 滿洲一〇六部隊	
	終戦時位置 ヤップ島	
	帰還上陸地 浦賀	
	復員年月日	
昭和 三 三	滿洲国三江省佳木斯出發（六一孤遣隊として）	
	サイパン島上陸守備	
	ヤップ島上陸爾後同島守備	
昭和 七 二	独立歩兵第三ニ九大隊編成完結	
昭和 七 二	解隊復員	

(76)

0757

独立歩兵第三三〇大隊路歴

年月日	概	要
昭和六年八月	歸成地 サイパン島	
昭和六年八月	終戦時位置 南洋群島パラオ島	
昭和六年八月	歸還上陸地 浦賀	
昭和六年八月	復員年月日 部隊は独立守備歩兵方十二大隊として満州北安省北安に在りて守備に任ず	
昭和六年八月	緊急勅令 下	
昭和六年八月	陸用部隊として駐屯地出発 釜山經由	
昭和六年八月	神戸	
昭和六年八月	横浜寄港	
昭和六年八月	十四隻船団となり 横浜出帆	
昭和六年八月	サイパン寄港	
昭和六年八月	四隻の船団となりサイパン発ヤップ島に向ふ	
昭和六年八月	グワム島西北方一七〇哩附近航行中敵潜水艦襲撃を受け船は沈没	
昭和六年八月	生存者は救助されサイパン島へ帰還す(戦者四六名)	
昭和六年八月	六八独立歩兵大隊より独立歩兵第三三〇大隊(一時三三四大隊と改稱す)に改変	

(77)

0758

20の中外部太

年月日	概要
六 上	中隊長以下一〇三名を独歩三三七大隊要員としてサイパン島に残置部隊は二隻の船団によりヤップ島に向ふ
六 下	ヤップ島東北約五〇〇哩附近にて敵機三〇機の攻撃を受け交戦 (戦死四傷五あり) ヤップ入港を見合せパラオ本島に上陸
六 下	ヤップ島同不能の爲
六 下	パラオ島の守備に任ず 敵機数機の初攻撃を受け
六 下	出発帰還

(78)

0759

独立混成隊第五十三旅司令部略歴

年月日	概要
<p>昭和 五 一</p>	<p>縮成地 パラオ島 縮成年月日 終戦時位置 パラオ島 帰還上陸地 補償 復員年月日 猛、朝 列 基、剛兵團残置人員を生として転進せる野部隊（蘇州の一ヶ大隊を合せて縮成完結 以降敵機及敵機動部隊パラオ島近海に出没するや一部を海上撃隊（神山少佐指揮）をウルフターブルに出動せしめ多大の戦果を挙げ 別に蘇州より縮入さるる善の一ヶ大隊はサイパン島に於て作戦に参加掌握し得ず 主カはパラオ島に一部（六ヶ大隊）をペリリニ島に派遣す。長の指揮に入つしむ 五七兵衛地区隊を軍隊区分により当初指揮下に入りたるも後一四の長の隷下に入る</p>

(77)

0760



独立五十三旅団砲兵隊部隊略歴

年月日	概
昭和 六 一	<p>緬成地 パラオ島                      緬成年月日                      終戦時位置 パラオ島清水村                      帰還上陸地 稍賢</p>
五 一 十一	<p>復員年月日                      パラオ本島に残置された</p>
光 六 一	<p>明 月 剛 猛 朝 河 基 其他各隊の人員を以て緬成同島清水村に位置し                      警備に任す隷下中隊を田良 江見 川本 各歩兵大隊に配属す</p>
九	<p>以降敵機の攻撃下陳地構築の完壁を期しつゝ自活態勢を併行実施す                      マヌ作戦開始さるゝや神山少佐(A五三B五長)を長とするウクタール島に                      単進対バリカユー島作戦遂行に多大の成果を収め感状授與さる</p>
十 五	<p>未帰還の途につく</p>

(81)

0762

第混五十三旅工兵隊略歴

年月日	概要
昭和六年一月	<p>備成地 パラオ島                      備成年月日                      終戦時位置 パラオ島                      帰還上陸地 相賀                      復員年月日</p> <p>パラオ島に残置されていた、明月、猛、河、基、剛（其の他各部隊）の人員を合せ、<sup>BS</sup>備成満州より転進した昭一部隊の隷下に入る（四ヶ小隊を備成）                      本師がラスマオ、マルキヨク、鞠村に天々一ヶ小隊を歩兵大隊に配属し陣地構築爆薬改装作業に任ず                      相賀上陸解散</p>

(107)

0763

歩歩三四大隊 照一四五六

年月日	概要
癸五 六一	縮成地　パラオ諸島コロール島 縮成年月日 終戦時位置　コロール島（玉碎） 帰還上陸地　浦賀
甲七 五	復員年月日　（生還者二名）
乙六 一	縮成完結主方はパラオ地区オ五七兵砲整備隊を軍隊区分に依る五三Bに転属 也しゆ独立オ五四大隊に改編せる。
丙六 八	ペリリュー真に上陸以來將兵一尤となり陣地構築　飛行場整備に従事 敵は同島に強襲を加へ上陸を開始す
丁九 五	中川大佐を中心とする將兵善謀善戦を饒け数倍に余る敵に対し多大の損害を與へた るも同時
戊十 三	全員戦死と認定せる

要

0764

独立歩兵三四六大隊略歴

年月日	概
昭和 六 一	<p>編成地 パラオ島                      終戦時位置 パラオ島                      帰還に陸地 補償</p>
昭和 七 六	<p>復員年月日                      軍隊区分による編成を命ぜらるるも主力はサイパンに於て追及中玉砕となり                      編成完結ならず長小林中尉以下小本部隊(三五〇一〇)に入り区處を受くパラ                      オ本島マルキヨウ附近に位置す</p>
九	<p>以降敵將及若幹部隊の攻撃の旺盛なる中心將兵克く一九となり 奮戦々斗 任                      務を遂行すると共に自活態勢の完壁を期し終戦に至る</p>
昭和 七 六	<p>補償に於て解散す</p>

(84)

0765

独立歩兵三四八大隊略歴

年月日	概要
五 六 一	<p>備戒地 パラオ島                      備戒年月日                      終戦時位置 パラオ島                      帰還上陸地 浦賀</p>
五 一 七	<p>復員年月日                      剛 嶺 朝 河 基兵団の同島残置人員を主体として備戒完結                      パラオ本島                      ガスバンに位置す</p>
九	<p>敵総反攻部隊の猛攻の間 克く將兵一丸となり戦斗任務を遂行                      アラマド海                      の守備に任ず且自活態勢の完壁を期し成果を収めたり</p>
五 一 六	<p>浦賀に於て解隊す</p>

(85)

0766

独立歩兵第三四九大隊略歴

年月日	概	要
昭和 六 一	備前地 パラオ島	
縮小年月日		
終戦時位置 パラオ島		
帰還上陸地 補資		
復員年月日		
昭和 六 一	パラオ本島に残置された剛 猛 朝 河 基各隊の人質を以て備前同島ガラス マオ附近に位置し主としてガラスマオ以北の警備に任ず	
九	以降敵が及木勲部隊猛攻を受けるや將兵一丸となり戦斗任務遂行と併用して敵 艦船の離れ地及コンソル水道出入を監視し五三Bの戦斗任務遂行に多大の成果 を収めたり	
昭和 八 五	終戦後は自活態勢完璧に努むす	
昭和 一 七	邦貨上陸解除	

22の双中印太

独立歩兵第三五〇大隊略歴

年月日	概要
昭和 一 一	<p>備前地 パラオ島</p> <p>縮小年月日</p> <p>終戦時位置 パラオ島</p> <p>帰還上陸地 稍實</p> <p>復員年月日</p>
昭和 一 六	<p>パラオ島に残置された 剛 猛 朝 刃 某其他各隊の人員を以て縮小同島清</p> <p>水村十五連隊第一大隊(今野大隊)マルキヨク守備解除後其の交代としてフマ</p> <p>ルキヨクの守備に任ず</p>
昭和 一 九	<p>以後敵機の爆撃パラオ島に集中されるや將兵は一丸となって戦斗任務を遂行マ</p> <p>ルキヨク近海に出没する敵艦船を捕捉して嚴重警戒すると共に情報を集めて</p> <p>五三Eの戦斗任務遂行に多大の成果を収む</p>
昭和 一 五	<p>稍實上陸部隊</p>

0768

独立歩兵第三五一大隊附歴

年月日	概要
昭和六一年	<p>縮成地 パラオ島 縮成年月日 終戦時位置 パラオ島 帰還上陸地 蒲賢</p>
五月一	<p>復員年月日 パラオ島在 剛 症 珂 基 各部隊人員を以て縮成完結</p>
花六一	<p>同島陸軍に位置す</p>
九	<p>以後敵機の爆撃パラオ島アイライ飛行場に集中されるや飛行場確保に連進すると共に戦闘任務を送行し且自存態勢の完成を期したり 縮成時より 六月迄 五三Bの諜下に入りしも五九の主力ヲアイライ地区へ転進と同時に同聯隊長の指揮下に入る</p>

(88)

0769